

# Future

## カンボジア交流プロジェクト ~Show & Tell~

11/16（水）に、カンボジア交流プロジェクトで3回目の交流を行いました。この1週間は、プロジェクトをコーディネートしてくださっている愛知福祉大学の影戸 誠先生がカンボジアに行かれるということで、カンボジアの子たちに向けた手紙を英語で準備し持って行っていただくこと、また交流で児童一人ひとりが自分の好きなことや紹介したいことを発表するShow & Tellの準備をしてみました。

特に今回の交流でのShow & Tellの発表は、全児童が英語で発表することにチャレンジしました。自分の言いたいことを組み立て、知っている単語を使ったり、翻訳ソフトを使ったりしながら英語の文章を考え、最後はDave先生、Brian先生、Ai先生にチェックしてもらい、完成させました。しかし文章を作るだけでは発表は完成ではありません。作った文章を話せなければならないため、英語を読んで先生に発音を直してもらったり、中には英語が得意なクラスメイトに読んでもらい、Keynoteに録音を貼り付けたりしている子もいました。当日に向けた練習は、家に帰ってご家族にサポートしてもらった子もいたと思います。

当日の交流では、影戸先生が持って行ってくださった手紙が実際に画面上に映ると、子どもたちは感動の表情を浮かべていました。またSOLAN4年生関係者みんなで作り上げた発表は、緊張感のある中、それぞれが一生懸命発表していました。どうしても読むことで一生懸命になってしまい、声が小さくなったり、スラスラと言えておらず、全てが伝わらなかった部分もあったと思いますが、今回の3回の交流を通して、プロジェクトの目的の一つである、「発表ややり取りを通して英語を活用する機会とし、学ぶ目的を実感するため」を実感している子は多かったと思います。また「カンボジアに行ってみたいなあ」と言う子もいて、4000キロ以上離れた国の人たちのことを知る貴重な機会にもなったと思います。カンボジアの学校は11月末で休みに入るため、交流としては一区切りとなりますが、これからもプロジェクトの中で「グローバルシチズンシップの育成」につながる学習を続けていこうと思います。

## 理事長講話 ~グローバルシチズンシップとは~

11/18（金）に、長尾理事長が本校の建学の精神である「グローバルシチズンシップ」についてお話しくださいました。お話は、今の日本にはたくさんの外国人が働いていたり、生活したりしているからこそ英語が必要なこと、また何より「違いを尊重できること」が重要であることからスタートしました。そして人種、国籍、性別、価値観など、人それぞれが持っている個性や違いには、「どちらが良い悪い」や「違いによって分ける」ことに意味はないこと、また「グローバル、世界は一つ、みんな仲間、コミュニケーションが広がる」の反対は、「ローカル、限られた地域、余所者は来るな、自分達の閉じた社会」にも触れながら、「『SOLANの4年生』という社会はどうしたい？」という話に進んでいきました。先日、大阪の17歳が「国際子ども平和賞」を受賞したニュースも紹介しながら、「グローバルシチズンシップを理解し、違いを受け入れる学年になってほしい」というメッセージをいただきました。プロジェクトや今回のような講話を通して、より「グローバルシチズンシップ」の理解を深めていきたいと思っています。